



今月の主要経済指標

目次

今月の経済関係統計資料

1 宮崎県景気動向指数	1
2 宮崎県の鉱工業指数	2
3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き	3
4 宮崎市の消費者物価指数	4
5 データ編	5

【参考】

・ 「月例経済報告」抜粋	8
・ 「宮崎県金融経済概況」抜粋	9

平成29年11月

宮崎県総合政策部統計調査課



1 宮崎県景気動向指数（平成29年8月分）

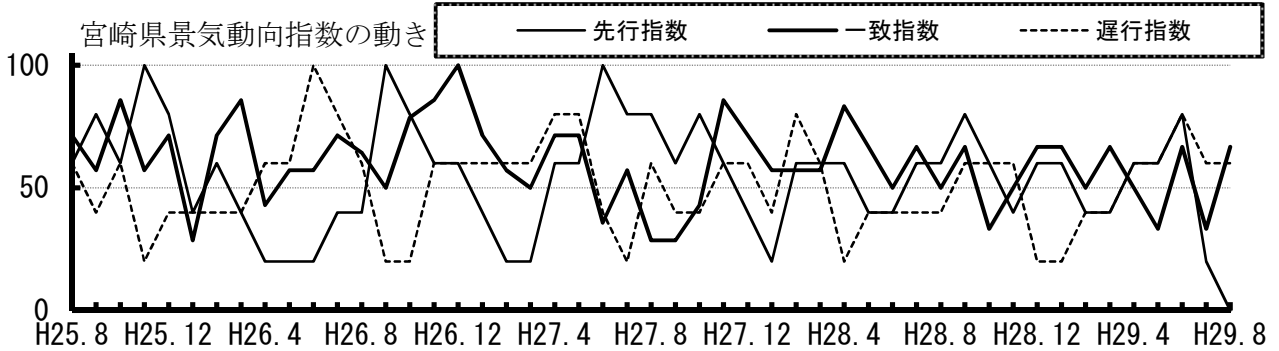
(1) 今月の動き

平成29年8月の本県のDIは、

先行指数は 0.0%となり、2か月連続で 50.0%を下回った。

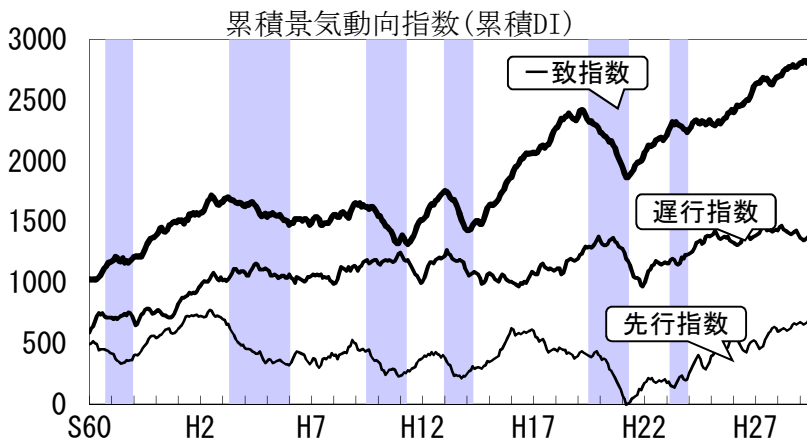
一致指数は 66.7%となり、2か月ぶりに 50.0%を上回った。

遅行指数は 60.0%となり、5か月連続で 50.0%を上回った。



	採用 指標数	拡張 指標数	プラスの指標（拡張指標）	マイナスの指標
先行系列	5	0	なし	新規求人数（パート含む）、新車登録台数（乗用車）、鉱工業在庫率指数（逆）、新設住宅着工戸数、ホテル・旅館宿泊客数
一致系列	6	4	有効求人倍率、鉱工業生産指数、輸入通関実績（実質）、雇用保険受給者実人数（逆）	百貨店・SPA・販売額（実質）、鉱工業出荷指数
遅行系列	5	3	鉱工業在庫指数、家計消費支出（勤労者世帯）、消費者物価指数（持家の帰属家賃を除く総合）	資本財出荷指数、貸出約定平均金利

(2) 累積景気動向指数



シャドウ部分：景気後退期

- 見やすくするため、先行指数には 500、一致指数には1000、遅行指数には 600をそれぞれ加算している。

(参考)

景気動向指数 : 景気が上向きか、下向きかを総合的に示す指数である。50%を上回って推移しているときは景気拡張局面、下回って推移しているときは景気後退局面と判断される。

累積景気動向指数 : 各指数から景気判断の基準となる50を引くことで、景気の拡張・後退の動向だけを確認することができる指数である。

2 宮崎県の鉱工業指数（平成29年8月分）（平成22年＝100）

平成29年8月の鉱工業指数（季節調整済指数） 注

	宮 崎 県		全国（参考）		九州（参考）	
		前月比(%)		前月比(%)		前月比(%)
生産	96.5	0.0	103.5	2.0	106.3	▲1.1
出荷	97.7	▲1.4	101.8	1.8	109.1	1.4
在庫	119.7	0.9	107.3	▲0.6	115.1	▲1.1

注 季節調整済指数とは、1年を通してほぼ規則的に繰り返す季節的な変動を除去した指数

【生産】

96.5（前月比0%） ～横ばい～

上昇に寄与した業種（4業種）			低下に寄与した業種（8業種）		
	主 な 業 種	前月比		主 な 業 種	前月比
1	電子部品・デバイス工業	14.3	1	はん用・生産用・業務用機械工業	▲8.4
2	プラスチック製品工業	12.4	2	食料品工業	▲1.2
3	繊維工業	1.1	3	化学工業	▲4.1

【出荷】

97.7（前月比1.4%低下） ～2か月連続の低下～

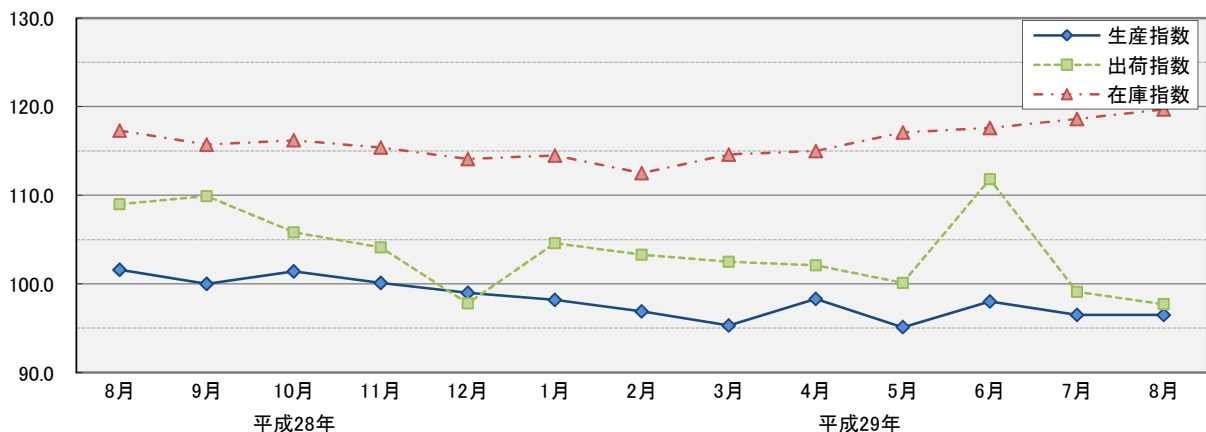
上昇に寄与した業種（6業種）			低下に寄与した業種（6業種）		
	主 な 業 種	前月比		主 な 業 種	前月比
1	電子部品・デバイス工業	13.1	1	食料品工業	▲13.6
2	鉄鋼・金属製品工業	37.9	2	パルプ・紙・紙加工品工業	▲8.5
3	電気・情報通信機械その他工業	7.8	3	繊維工業	▲4.8

【在庫】

119.7（前月比0.9%上昇） ～6か月連続の上昇～

上昇に寄与した業種（2業種）			低下に寄与した業種（7業種）		
	主 な 業 種	前月比		主 な 業 種	前月比
1	食料品工業	3.3	1	鉄鋼・金属製品工業	▲21.4
2	パルプ・紙・紙加工品工業	2.7	2	電子部品・デバイス工業	▲3.7
3	-	-	3	はん用・生産用・業務用機械工業	▲1.7

宮崎県の生産・出荷・在庫指数の推移（季節調整済指数）（平成22年＝100）



鉱工業指数は、本県の鉱工業の動向を総合的に把握することを目的に、生産・出荷を108品目、在庫を69品目選定し、それぞれ指数化したものです
平成25年12月に平成22年基準に切り替えました。

3 みやざきの賃金・労働時間・雇用の動き（平成29年8月分）

宮崎県における平成29年8月の賃金、労働時間及び雇用に関する調査結果（調査産業計）は次のとおりです。

【調査結果のポイント】

- ・ きまって支給する給与は 224,328円で、前年同月比 3.4%増
- ・ 総実労働時間は 146.0時間で、前年同月比 0.6%減
- ・ 常用労働者数は 315,857人で、前年同月比 1.9%増

※ 増減比は平成27年平均を 100とする指数で比較。

(1) 賃 金

「1人平均月間現金給与総額」は 234,923円で、前年同月比 3.2%増であった。

このうち、「所定内給与」は 208,572円、「所定内給与」に超過労働給与を加えた「きまって支給する給与」は 224,328円で、前年同月比 3.4%増であった。

(2) 労働時間

「1人平均月間総実労働時間」は 146.0時間で、前年同月比 0.6%減であった。

このうち、「所定内労働時間」は 135.7時間、「所定外労働時間」は10.3時間であった。

また、「1人平均月間出勤日数」は19.2日で、前年同月差 0.1日減であった。

(3) 雇 用

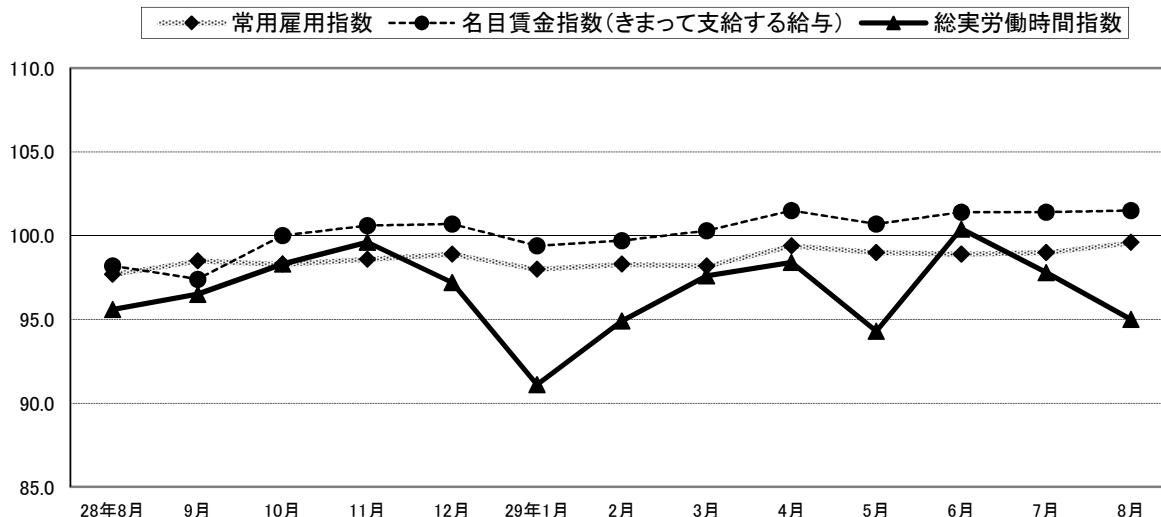
「常用労働者数」は 315,857人で、前年同月比 1.9%増であった。

《参考》

	宮 崎		全 国	
	事業規模5人以上	前年同月比 (指数又は日での比)	事業規模5人以上	前年同月比 (指数又は日での比)
1 賃 金 (名目)				
一人平均現金給与総額	234,923円	3.2%	273,886円	0.7%
所定内給与	208,572円	2.6%	240,450円	0.2%
きまって支給する給与	224,328円	3.4%	259,426円	0.4%
2 労働時間				
総実労働時間数	146.0時間	▲0.6%	139.2時間	▲0.8%
所定内労働時間数	135.7時間	▲1.5%	128.9時間	▲0.9%
所定外労働時間数	10.3時間	10.3%	10.3時間	0.6%
出勤日数	19.2日	▲0.1日	18.0日	▲0.2日
3 雇 用				
常用労働者数	315,857人	1.9%	50,302千人	2.5%

事業所規模5人以上：調査産業計

(平成27年=100)



4 宮崎市の消費者物価指数（平成29年8月調査分）

総合指数 101.1 （平成27年=100） 前月比（+）0.3% 前年同月比（+）0.9%

(1) 概況

平成29年8月の宮崎市の消費者物価指数は、平成27年を100とした総合指数で101.1となり、前月比は0.3%の上昇、前年同月比は0.9%の上昇となった。

総合指数の動きを前年同月比で見ると、平成29年4月は0.8%の上昇、平成29年5月は0.6%の上昇、6月は0.5%の上昇、7月は0.5%の上昇、8月は0.9%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は100.9となり、前月比は0.2%の上昇、前年同月比は0.9%の上昇となった。

食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数は100.6となり、前月比は0.1%の上昇、前年同月比は前年と同水準となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は101.2となり、前月比は0.1%の上昇、前年同月比は0.5%の上昇となった。

宮崎市の10大費目別指数、前月比、前年同月比及び寄与度（平成29年8月）

費目	指数	前月比		前年同月比	
		変化率(%)	寄与度	変化率(%)	寄与度
総合	101.1	0.3		0.9	
食料	103.5	0.6	0.18	1.9	0.52
住居	100.1	0.0	0.00	-0.4	-0.08
光熱・水道	100.9	0.1	0.01	6.2	0.40
家具・家事用品	100.3	0.0	0.00	-0.9	-0.03
被服及び履物	101.5	-1.9	-0.07	3.7	0.14
保健医療	102.1	1.3	0.06	1.6	0.08
交通・通信	98.5	-0.1	-0.02	0.4	0.06
教育	103.7	0.0	0.00	1.5	0.05
教養娯楽	99.6	1.7	0.15	-2.3	-0.22
諸雑費	101.5	-0.1	-0.01	0.2	0.01

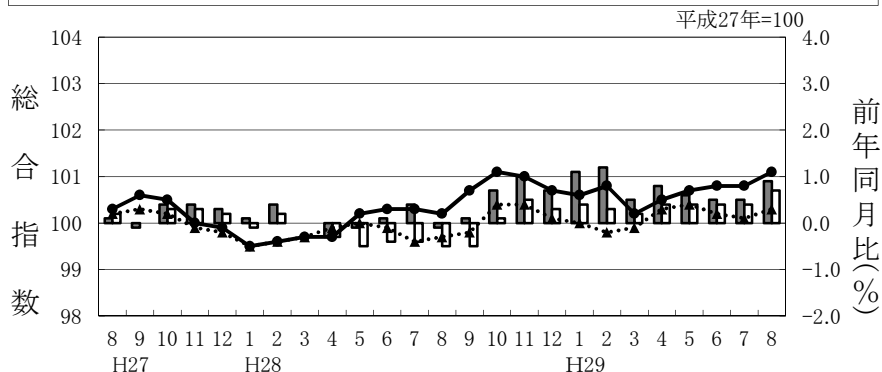
(2) 総合指数の前月比に影響を与えた費目及び寄与度等

	(10大費目)	(中分類、前月比、寄与度)		(品目)
		前月比(%)	寄与度	
上昇	食料	野菜・海藻	3.9 0.10	きゅうり
	教養娯楽	教養娯楽サービス	2.5 0.14	宿泊料
下落	被服及び履物	シャツ・セーター・下着類	-3.1 -0.04	婦人用Tシャツ
	交通・通信	通信	-1.8 -0.08	通信料（携帯電話）

(3) 総合指数の前年同月比に影響を与えた費目及び寄与度等

	(10大費目)	(中分類、前年同月比、寄与度)		(品目)
		前年同月比(%)	寄与度	
上昇	食料	肉類	12.2 0.32	牛肉（国産品）
	光熱・水道	電気代	6.7 0.22	
下落	教養娯楽	教養娯楽サービス	-2.5 -0.15	
	住居	家賃	-0.8 -0.12	

前年同月比(宮崎市)
 前年同月比(全国)
 ● 宮崎市 ★ 全国



		fl		fl		fl		fl		fl		fl	
		fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl
&		\$", \$	*ž- &S	, ž, ()	-)",	%S(",	%S)" +	- S""	(" (
&		\$"-'	*ž) %S	-ž)' %	- *""	%S" -	%S" 8	- (" %	(" S				
&		% S-	*žS&	%S'S'	-," S	%S"% S	%S",	%S")	" *				
&		% &S)ž+' -	%S') +	%S" S	%S" S	%S" S	%S" S	" (
&		% '*)ž' * -	%S- &	%S" %	%S" +	%S"	-- ""	" %				
&	,	%' +	(%)	, , ,	%S" +	, + "%	-- " +	-) " %	" %				
&	-	%',	(' 8	- ((%S" +	, (" +	%S" S	%S" 8	" S				
&	%S	%(S	(&	-)*	%S-	, (" +	%S" (%S"-	" S				
&	%%	%(%	', 8	, -'	%S" 8	, +")	%S" (%S" -	" %				
&	%&	%(')	' *	, (8	%S" (% (" %	%S")	%S" -	" %				
&	%	%(')	(+)	%S'+	%S" 8	, * "%	-- ""	- (" "	" S				
&	8	%(')	(*)	%S"/	%S" S	, (" S	%S" S	%S" (8, &				
&	'	%()	(- %)	- , %	%S*	, , -	%S" *	%S" %	8, &				
&	(%(,)) *	- &	%S" 8	, +")	%S%)	%S" S	8, &				
&)	%(-	()'	- %&	%S" +	,) *	-- "	- (" -	" %				
&	*	%(%)	(&)	- * (%S" %	% + *	%S" *	-- " (8, &				
&	+	%() 8	', %	- &8	%S" (% % %	%S" +	%S" *	8, &				
&	,	%() 8	(S'	- ((%S" "	, + " S	-- *"	- + " 8	8, &				
										' S			

		fl		fl		fl		fl		fl		fl	
		fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl	fl
&		S" *-	, Sž%&S	, *ž& (%S&)	- , " +	%S" *	, * ""	(" "				
&		S" ++)ž' - ,	, -ž)' (%S&,	-- "	%S"% S	- S" +	" +				
&		S" -'	+Sž, ' %	--ž) - 8	%S*'	%S")	%S" -	%S",	" 8				
&		% S'	**ž) 8	%S&8	%S" S	%S" S	%S" S	%S" S	" 8				
&		% &&	*' ž()'	%Sž((- , ,	-- "%	-- ""	%S" (8, &				
&	,	% &)žS- +	%SžS)'	- + " +	, * (- , " S	%S" ,	fl! - L				
&	-	% &)ž%&	-ž- , +	- , "	, %' +	- * ""	%S& (8, &				
&	%S	% &	(ž- - %	-ž*) S	- , ""	, ' (- , " +	%S" %	fl! %& L				
&	%%	% &+	(ž' %	-ž- %	- , *"	, , " S	-- "	%S" +	8, &				
&	%&	% &	' ž) * (, ž&*'	- , -	% S' -	-- "	%S" +	8, &				
&	%	% ' '))ž, %&	%Sž%&S	- , " S	, (" %	- , *"	-- ""	fl! L				
&	8	% ' '))ž() 8	%Sž* + (- , ""	, ' ,	- , ,	%S" S	fl! L				
&	'	% ' ()ž* -)	%Sž&S%	- , " 8	, , " S	-- "	%S" "	%,				
&	(% ' ,	*ž) *'	-ž+ ' %	-- " (,) -	%S" ,	%S" +	fl! * L				
&)	% ' -)ž' ,)	-ž) &	-- " S	, +")	%S" "	%S" "	%,				
&	*	% ' ((ž, %	-ž- S-	- , -	% & " (%S" (%S" S	%,				
&	+	%(((ž* ' +	-ž, S*	-- " S	%S" "	%S" "	%S" +	%,				
&	,	%(S)žS%&	-ž, - 8	-- *"	, , " 8	%S" %	%S" "					
										' S			

@

*** 参考資料**

「月例経済報告」抜粋（平成29年10月25日：内閣府）

【基調判断】

9月月例	10月月例
<p>景気は、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、緩やかに持ち直している。 ・設備投資は、持ち直している。 ・輸出は、持ち直している。 ・生産は、持ち直している。 ・企業収益は、改善している。企業の業況判断は、改善している。 ・雇用情勢は、改善している。 ・消費者物価は、横ばいとなっている。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>	<p>景気は、緩やかな回復基調が続いている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人消費は、緩やかに持ち直している。 ・設備投資は、持ち直している。 ・輸出は、持ち直している。 ・生産は、持ち直している。 ・企業収益は、改善している。企業の業況判断は、改善している。 ・雇用情勢は、改善している。 ・消費者物価は、横ばいとなっている。 <p>先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。</p>

【各論】

	9月月例	10月月例
個人消費	緩やかに持ち直している。	緩やかに持ち直している。
設備投資	持ち直している。	持ち直している。
住宅建設	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
公共投資	堅調に推移している。	堅調に推移している。
輸出	持ち直している。	持ち直している。
輸入	持ち直しの動きがみられる。	持ち直しの動きに <u>足踏み</u> がみられる。
貿易・サービス収支	黒字は、 <u>おおむね横ばい</u> となっている。	黒字は、 <u>増加傾向</u> にある。
生産	持ち直している。	持ち直している。
企業収益	改善している。	改善している。
業況判断	改善している。	改善している。
倒産件数	おおむね横ばいとなっている。	おおむね横ばいとなっている。
雇用情勢	改善している。	改善している。
国内企業物価	<u>上昇テンポが鈍化</u> している。	<u>このところ緩やかに上昇</u> している。
消費者物価	横ばいとなっている。	横ばいとなっている。
海外経済	世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。	世界の景気は、緩やかに回復している。先行きについては、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、中国を始めアジア新興国等の経済の先行き、政策に関する不確実性による影響、金融資本市場の変動の影響等について留意する必要がある。

(注) 下線部は、先月から変更した部分。

*** 参考資料**

「宮崎県金融経済概況」抜粋（平成29年11月1日：日本銀行宮崎事務所）

この公表資料は当事務所ホームページに掲載しています。

ホームページアドレス <http://www3.boj.or.jp/miyazaki/>

2017年11月1日

日本銀行宮崎事務所

日本銀行鹿児島支店

宮崎県金融経済概況

【概要】

宮崎県の景気は、緩やかに回復している。

すなわち、最終需要面をみると、個人消費は、底堅く推移している。観光は、基調としては堅調な動きが続いている。住宅投資および公共投資は、横ばい圏内で推移している。

生産は、緩やかに持ち直している。

企業部門の動向を短観（9月＜鹿児島・宮崎両県集計分＞）で見ると、景況感は、改善している。設備投資は、増加基調にある。また、人手不足感は強まっている。

こうした企業動向を反映して、雇用・所得環境は改善している。

【各論】

1. 個人消費

百貨店・スーパー販売額は、前年を下回って推移している。家電販売額は、前年を上回った。乗用車新車登録台数（含む軽自動車）は、前年を上回って推移している。

2. 観光

主要ホテル・旅館宿泊客数、主要観光施設入場者数とも、前年を下回った。

3. 公共投資

公共工事請負金額は、前年を上回った。

4. 住宅投資

新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲のいずれも前年を下回った。

5. 生産

鉱工業生産指数(季節調整済)は、前月比横ばいとなった。

6. 雇用・所得環境

求人数は増加基調、求職者数は減少基調を続けており、有効求人倍率(季節調整済)は、高水準で推移している。

現金給与総額は、前年を下回って推移している。

常用労働者数は、前年を上回った。

7. 物価

消費者物価指数(生鮮食品を除く総合)は、前年を上回って推移している。

8. 金融面

預金、貸出金とも、前年を上回って推移している。

貸出約定平均金利は、緩やかな低下が続いている。

企業倒産件数は、低水準で推移している。

以 上